

スピーカーアキュライザーの活用(5)
—ベルリンフィルデジタルコンサートホール—

1. 始めに

前報(1)のスピーカーアキュライザーSPA-7の配置替えの結果を試聴していきます。

2. スピーカーアキュライザーSPA-7の試聴方法

ベルリンフィルデジタルコンサートホールの試聴ということでスピーカーアキュライザーSPA-7の導入(6)と同じ音源を使用します。

今回は、ベルリンフィルデジタルコンサートホール(BPODCH)の配信を視聴します。聴きどころはベルリンフィル大ホールのライブ感であり、対応するパッケージメディアとの比較も興味あるところです。

スピーカーアキュライザーSPA-7の導入(6)では、DMR-UBZ1からSonica DAC経由で再生しましたが、今回はPCからSonica DAC経由で再生します。

BPODCHの収録音源は次のとおりです。

フランツ・リスト ピアノ協奏曲 1 番

エフゲニー・キーシン (ピアノ)

マリス・ヤンソンス指揮ベルリンフィル

グスタフ・マーラー 交響曲 3 番

ロレンツォ・ヴィオッティ指揮ベルリンフィル

マニユアル・デ・ファリャ バレエ三角帽子

ファン・フォメナ指揮ベルリンフィル

ラケル・ロヘンディオ (ソプラノ)

モDEST・ムソググスキー 展覧会の絵

トウガン・ソヒエフ指揮ベルリンフィル

アントン・ブルックナー 交響曲 7 番

セルジュ・チェリビダッケ指揮ベルリンフィル

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト アリエット《鳥よ、年ごとに》

マクシム・エメリヤニチェフ指揮ベルリンフィル

サビーヌ・ドゥヴィエル (ソプラノ)

3. スピーカーアキュライザーSPA-7の試聴結果

リストのピアノ協奏曲 1 番は、キーシンのピアノの高音は輝かしく、左手の低音の沈みこみや余韻がリアルです。

マーラーの交響曲 3 番は、冒頭のホルンやトロンボーンの響きが柔らかく、グランカッサの弱打が明瞭になっており、大編成オーケストラのパート毎の分離が向上しています。

ファリャの三角帽子は、打楽器や拍手の音の立ち上がりが鋭く、ロヘンディオのソプラノがホール内に響きわたっています。

ムソググスキーの展覧会の絵は、冒頭の金管の煌びやかな響き、終盤のティンパニ、グランカッサ、シンバルなどの一撃まで、色彩感あふれる演奏です。

ブルックナーの交響曲 7 番は、チェリビダッケがこだわる音の協和が伝わってきます。

ドゥヴィエルのソプラノは、ホール内の残響も含めてリアルであり、伴奏のフォルテピアノの響きが明瞭になっています。

4. まとめ

全般的に音の精度が上がるとともに残響音が豊かになっており、スピーカーアキュライザーの配置替えの効果と思われます。

以上